

## Q. 高校は何のためにあるの？

- **勉強するため。**（文化・スポーツなども含む）  
**勉強したくない人は、行かない方がいい。**義務教育は中学までなので、行かないという選択肢もある。毎年、中学生全体の2%は高校進学していない。  
行かない場合は、就職することとなります。それはそれでいい。  
が、もっと勉強したい人、卒業後の進路の幅を広げたい人は、ぜひ行くべきです。

## Q. どんな高校がある？

- 公立と私立に分かれる。それぞれに特徴がある。

公立は、東京は都が経営。都立とも呼ぶ。都民のための高校。  
行政が経営しているので、学費が比較的少なめ。レベルはピンからキリまで。  
公立だから厳しい、とか、逆に、ぬるい、ということはない。公立でも学校によって校則が緩かったり、厳しかったり、それぞれ。公立でも特色は学校ごとに異なる。  
生徒に大学進学を目指させる学校もあれば、資格取得を目指させる学校もある。

私立は法人が経営している。私立も色々な学校がたくさん。  
各校特色があり、男子校・女子校、私服だったり、あるいは全寮制だったり  
レベルもピンからキリまで、実にいろいろ。  
都内には、高校がたくさんあり、バリエーションが豊富。かなり恵まれた環境と言える。

## Q. 高校ってどんなところ？

- 高校はいままで（小・中）と**全然違う。なぜなら受験があるから。**  
受験があり、その合格者だけが通っている。するとどうということになるか？  
**似たような学力レベルの子が集まる。**小・中では、義務教育だったので、  
「みんなでいっしょにがんばろうね」という雰囲気。  
いろいろなレベルの子と一緒にいたのが、小・中。  
高校は違う。「同じ難関をくぐり抜けた仲間同士、さらに頑張ろう」ということになる。  
中学の3年より濃厚な3年間は待っていることでしょう。  
（学校によっては文化祭・体育祭がめちゃくちゃ盛り上がる）  
（逆に、ぜんぜん盛り上がらない学校もある。それも校風の違いです）

## Q. 高校に行くにはどうしたらいい？

- 受験に合格することが必要。  
都立は、「一般入試」と「推薦入試」、2通りの方法がある。  
「一般入試」は、5教科の学力テスト。  
「推薦入試」は、学力テストは行わず、調査書（内申点等）・面接・作文を点数化。

私立にも同様に、「一般入試」と「推薦入試」がある。(学校によってはどちらか一方)  
私立には、それぞれ、「単願優遇」「併願優遇」「一般」、に分かれている。(学校による)  
(優遇についてはまた次項でお話します。)

## Q. レベルの高い高校に行く方がいいの？

→ あえて言います。できるだけ高いところを目指すべし。

なぜなら・・・

- ①**レベルが高い高校ほど良い先生がそろっている。**高いところから順に先生を決めるので。
- ②**友達の志が高い。**自分も現状に満足せず、もっと上を目指せるようになる。
- ③**友達の学力レベルが高い。**勉強の速度も速いので、自分の学力も引っ張られて伸びる。
- ④**自由な気風の学校が多い。**先生が何でも決めることなく、生徒に任せることが多い。
- ⑤**より良い「学歴」のため。**学歴で人を判断するのは間違っている。それも一理ある。  
だけど、履歴書に書くとき、自信を書けるのがレベルの高い学校であることは間違いがない。  
世間はどうしても、いまだに学歴・出身校で人を判断する。
- ⑥**将来の職業選択の可能性。**レベルの低い学校から有名企業や大企業に入るのは難しい。  
だが、名の知れた学校からなら、大企業に入るのも中小企業に入るのも、  
選択の余地がある。自分の可能性が広がる。

「レベルが高い」というのは、いわば、「目線を高くする」ということです。  
高い所から見える景色と、低い所から見る景色が違ってくるのは当たり前でしょう。  
高い所からなら、近いものはもちろん、遠くのものまでよく見えるかもしれない。

## Q. 受験までの流れは？

→ 6月頃から各高校で説明会がスタート。10月頃までに2～5校「行きたい」と思える学校を見つけべき。

企業が主催する模擬テスト(Vもぎ、Wもぎ)を受けるといい。3回が妥当。

模擬テストでは、高校入試問題に似せた問題を解く。そして、合否判定が出る。

中3の2学期の期末のあと、内申点が確定する。(この点数は自分の持ち点になります)

この点数をもとに、学校の先生と3者面談をして、志望校を絞っていく。

(以下は2019年度のスケジュール)

**1月22日 都立推薦入試の願書提出日**

**1月下旬 都立推薦入試・私立推薦入試**

**1月31日 都立推薦の合格発表**

**2月5日 都立一般入試願書提出日**

**2月12日 願書取り下げ(※ここまで出願先は悩めます。ここが志望校最終決定)**

**2月13日 願書再提出 →ここで倍率が確定**

**2月中旬 私立一般入試・併願優遇入試**

**2月21日 都立一般入試**

**3月2日 都立一般の合格発表**

この時点で合格した高校がなければ、  
2次・3次の私立入試、あるいは、定時制、あるいは、都立後期試験に臨むこととなる。  
そこまでくると、あまり希望を言えない。入れるのなら入る、という状況になる。

### Q. 都立入試の点数設定は？

- 一般入試は、1000点満点。うち300点が内申点。700点は2月21日学力テスト5教科の点。  
内申点は、最高オール5だとすると、9教科で素内申45点。だが、5教科を除く実技4教科は2倍がけされ（2倍の価値に変換）、最高65点となる。＝「換算内申」という。  
その換算内申も、300点に換算される。（つまり計2回換算される）  
また、2月21日の学力テストも、5教科500点満点だが、700点に換算される。

内申点が確定するのは、3年生の2学期の期末テスト。その通知書の点数が、内申点。  
この点数には、1学期の成績も考慮されるので、1学期から最善を尽くさなければならない。  
これはいったん決まってしまうと後戻りはできない。

### Q. 内申点は、なぜ大事なの？

- 3年生の成績で決まる内申点。これは都立の一般入試で使うだけではない。  
都立の推薦入試でも、この内申点が、各校の合格ラインに足りているか足りていないかで  
可否に大きく影響する。  
また、  
私立の優遇措置を得られるためには、この内申点が基準となる。  
内申点はいわば、**自分がどれだけ頭がいいかの証明書。この点数で判断される。**  
内申点が高い人には選択肢がたくさんある。低い人は、それなりになる。  
だから、**内申点は大事です。中間・期末の点数にはこだわってください。**

### Q. 受験のパターンに定番はあるの？

- ある。  
都立第一志望・私立すべり止め、というパターン。  
内申点で、私立のすべり止め校は、試験を受ける前に合格をほぼ保証する  
という、一種「ウラ」の制度がある。それが併願優遇や単願優遇。  
併願優遇なら都立も受けられる。都立第一志望の人にとってこの制度利用が多い。  
単願優遇だと「絶対にそこに行く」と約束するので、都立に受けることはできない。  
その分、試験・内申点の難易度はやさしくなる。  
また、「私立は絶対に行きたくない」という場合も多い。その場合は、都立一本にしぼる。  
できるだけ私や学校の先生にアドバイスをあおぐと良いでしょう。

### Q. 志望校はどうやって決めればいいのか？

- まずはいろいろな情報を調べて、「行きたい！」と思える学校を探そう。

その後、お母様かお父様か、保護者である人に相談を。

そして、面談の際には、学校の先生に頼ってください。

最終的には、模試の結果で判断する。1月の時点で合格率が60%を下回る場合私としては、おすすめしない。志望校を下げるように伝えます。

しかし、それを鵜呑みにする必要もない。自分の道は自分で決めてください。

決して後悔のないように、願書取り下げの前日まで悩んで良い。

ところで、

なぜお父様お母様に相談する必要があるかという、まだあなたたちは自立できないから。高校に通う場合も、毎日朝食を作ってくれる人、学業を応援してくれる人、その後の進路もアドバイスをくれる人は、いつでも一番身近なお父様お母様でしょう。まだ幼いから、というわけではない。勝手な行動はせず、お父様・お母様を巻き込むこと。

### Q. どのくらい勉強したらいいのか？

→ 中間テスト・期末テストの点をガンガン上げてください。

中3夏休みに入ったら、受験モード。受験の内容＝中1～中3の内容すべて。これを一気に総復習。弱点をどンドンつぶす。1日8時間くらい勉強すべきでしょう。

夏休みが終わるところから2学期の内容をパーフェクトにする。内申点アップのため。

2学期からは、帰宅後すぐに着替えて塾に来る日々が入試まで続く。

2学期が終わると、内申点が出る。その点をもとに、志望校を絞り込み、志望校合格まで、あと何点必要か、算出する。入試まで、この点数を超えるために勉強する。

当塾では、部活引退後から入試前日まで、毎日自習が強制となる。

冬休みは、冬期講習。毎日8時間～10時間勉強。

ただし、日曜日くらいは休みにしてください。オフの日を作ることも、メリハリの効いた勉強のために必要。休みなく働き続けるなんて、人間には無理ですし、非効率。

### Q. 内申点の中3の成績なら、それまで勉強する意味なくない？

→ 中3の学習範囲は、中学の勉強のなかで最も難しい。

なぜなら、**いままで習ったことすべてを使わないと解けないものが多い**から。

英・国・数はもちろんのこと、理科ですら、いままでの知識がモノをいう。

いままでの勉強の積み重ねがない人には、点がとれない。

ならば、中1のうちから、あるいは、中2のうちから、中間・期末でしっかりと点数をとっておくことが、知識の土台作りのために、必要。

そもそも、ずっと点数が低い人が、いきなりドカンと点数が上がることはありえない。

点数というものは、だんだんと上がっていくもの。

なので、**できるだけ早いうちから点数を上げていく**ことが大切です。

### Q. どこまで頑張らなきゃいけないの？

→ 都立の入試に限って言うと、都立は全員同じ問題を解く。

その中でも、「A高校」を受けるなら、500点中400点は絶対必要、とか

「B高校」なら、500点中300点で大丈夫、だとか。

学校のレベルによって、目指す点数は異なる。

さらに、自分の持ち点である内申点もからむため、人によって、必要な点数というのは異なる。つまり、頑張らなきゃいけない量は、人によって変わる。

が、問題が同じなので、確実に解けなければいけない問題は、皆に共通してある。

### Q. 何を勉強すべき？

→ 夏休みまでは中間・期末の内容を。

夏休みからは、入試モード。各科目で違う。

**英語……とにかく長文をスラスラ読めることを目指す。基本的な単語は確実に覚える。**

**国語……長い小説や説明文を読み解く能力。200字の作文を書く能力。**

**数学……いままでの計算すべて楽勝にし、関数・図形・証明問題の基礎をしっかりと。**

**社会……大切な言葉を覚えるのは当たり前なので、まず全範囲の言葉覚えを。**

**理科……全分野の基礎をしっかりとわかること。理屈で説明できること。**

各科目共通しているのは、基礎が大切、ということ。基本的な問題ならスラスラ解ける、そこを目指しましょう。

### Q. 推薦入試受けるなら、受験勉強する必要はない？

→ いいえ。必要は大いにある。

推薦入試は、棚からぼたもち。受かる子は3人～5人に1人程度。

普通は落ちます。（※この落ちるショックに耐えられる人だけ受けてください）

推薦はあてにせず、5教科の「一般入試」に向けて勉強すべき。

### Q. 高校で人生決まるの？

→ あえて言います。**決まります。**

決まるけど、どの程度、その人の人生に影響を及ぼすかは、ひとそれぞれ。

良い高校に入ったけど、遊んでばかりいたら、墮落するだろうし、

妥協してレベルの低い高校に入ったけど、周りを無視して勉強しまくって、国立大学に入る人だっているだろう。

たった3年。

されど3年。

この時期、人生において大切な時期であることは確実。なぜなら、とても伸び盛りだから。

そんな伸び盛りのときに、何をしているか？ その土台となるのが高校だと思います。

一生付き合っていく友達もできますよ。

要は自分次第。保護者に頼りつつも、しかしできるだけ自立するよう心がけよう。

高校の受験勉強は、その第1歩なのかもしれません。

Q&Aは以上となります。不明点や質問があれば、加藤までお気軽にきいてください。